

## 荘内病院 R2年度黒字決算 新型コロナで国・県補助金が増加し、 移転改築19年目で減価償却費が減少

市立荘内病院の令和2年度決算では、純利益が4億3322万円でした。

2003（平成15）

年7月の新病院新築移転後、初の黒字決算で、元年度は2億4866万円の純損失でした。

年々積み増しされて来た赤字の繰越欠損金は、123億9605万円から119億6283万円に減らすことが出来ました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、同感染症外来を設置し、専用病

床25床を確保しました。

新型コロナの影響で受診抑制が続く、前年度に比べ入院で1万3649人（9・5％）減り、外来で5341人（3・6％）減少しました。

救急患者数も急減し、特に小児科が2248人から1214人へ半減しています（グラフ参照）。

医業収益は、加算取得等で入院診療単価が1753円（3・3％）増加したものの、患者数の減少から5億5659万円（5・3％）

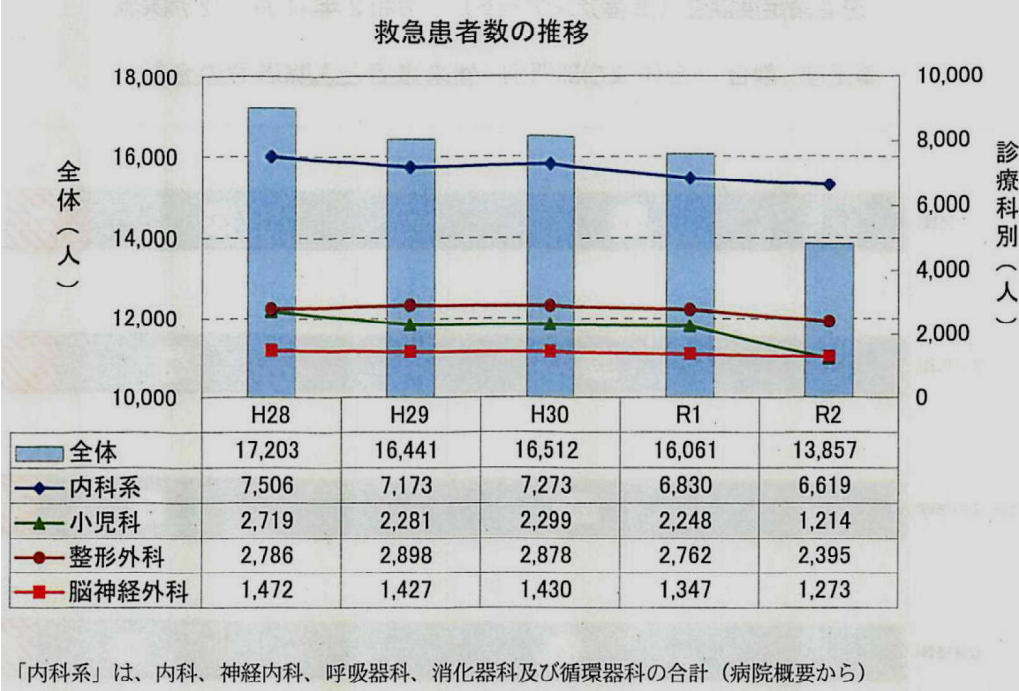
減り、費用では、移転改築19年目になり、減価償却費が4億5196万円（36・3％）減少しました。

医業外収益は、新型コロナで国・県の補助金が7億8887万円（45・7％）増加したことが、黒字決算の要因になっています。

### 地域医療連携の後退が懸念

荘内病院は「地域医療支援病院」として承認され、紹介率Ⅱ（紹介患者＋救急患者）／初診患者と、逆紹介率Ⅱ（荘内病院から他の医療機関に紹介、が公表されています（左表）。

いずれも減少し、地域医療連携の後退が懸念されます。



### 紹介率、逆紹介率

	H30	R1	R2
紹介率	78.5%	78.5%	70.4%
逆紹介率	101.2%	99.3%	97.7%

## 藤沢周平を読む⑫

鈴木重雄（八色木）

### ■死別

長女展子<sup>のぶこ</sup>が2月に生まれ、妻悦子は体調を崩し、腹痛を訴えて直ぐそばの病院に通ったものの、なかなか治らなかった。

その頃清瀬町に住んでいたのだが、不安に駆られ、以前住んだ練馬の富士見台の医師に紹介してもらって、本郷の日本医科大附属病院に診せた。

精密検査の後で、予想もなかったがんを宣告されたのである。

そのとき周平は、頭から血が引いていく感触であった。

担当の医師は進行の早いがんで治療は不能だと言った。

その頃SIC（と記憶している）という薬があつて、末期がんの特効薬だと言われた。

周平は藁をも掴む想いで吉祥寺のU病院を訪ね、薬の発見者であるU医院長に会った。

院長は周平の話を知るとSICを使えば必ず治るから心配しないよつと言った。

周平は日本医科大病院に引き返し、その話しをしたが、主治医は気の毒そうに当病院ではその薬は使えないことになったと言った。

どうしてもその注射をやりたいと言っているのであれば、やってくれる病院があるから紹介すると言っ親切な医師だった。

その病院は品川区旗

の台にある昭和医科大病院だった。

悦子を車に乗せて転院していった日のことが忘れることが出来ない。

夏の終わりに近いその日は、日の光こそやや白っぽく感じられたが、外気は暑かった。

周平は悦子に藍の花柄の新しい浴衣を着せ、帯を締めてやって車に乗せた。

途中教えられた昭和通りで車を止め、教えられた店でSICの注射薬を買った。薬は患者が買って病院に持っていくのである。特効薬は高価で心細い思いをしたのを覚えている。

たどり着いた昭和医科大病院は医師も看護師も親切で、病妻を献身的に看護してくれた。子どもは田舎に預けたので、周平はそこから会社に出勤し、夕方病院に帰る生活が続けた。

しかしそれからふた月もたらず、昭和38年の秋に悦子は亡くなった。28歳だった。

そのとき周平は自分の人生も一緒に終わったように感じた。死に至る一部始終を見とどける間には、人に語れないようなこともあった。

そういう胸もつぶれるような光景と時間を共有した人間に、この先どのような希望も再生もあるとは思えなかったのである。

# 総選挙 改憲勢力が3分の2超 憲法闘争の再強化で、 改憲勢力の暴走にストップを



## 憲法共同センターが談話

第49回総選挙結果を受けて、憲法共同センターは2日、「憲法闘争の再強化で、改憲勢力の暴走にストップを」の談話を発表しました。

3党で334議席(72%)を占める

自民、公明の政権与党が改選前議席から12議席減らしたものの、293議席と絶対安定多数をこえ、改憲推進や新自由主義政策の維新は11から41に大幅に議席を増加しました。この結果、改憲論議に前向きな3党で、衆議院定数465のうち334議席(72%)を占め、国会発議に必要な総定数の3分の2(310議席)を超えました。

これら3党の参議院の議席は63%で、3分の2にわずかに達しませんが、「改憲発議の危険性が一気に高まることを十二分に警戒しなければならぬ」と述べられています。

GDP比2%以上  
で軍事費拡大

自民党は、その総選挙公約で、「日本国憲法の改正をめざす」ことを重点項目に掲げ、いわゆる「改憲4項目」での改憲論議の促進を強調しています。

「改憲4項目」は、  
①自衛隊の明記、②緊急事態条項創設、③参院選の合区解消、④教

育無償化です

また、新型コロナウイルスにかかわって「行政がより強い権限を持つための法改正実現」を明記し、いわゆる敵基地攻撃能力の保有や、GDP比2%以上も念頭に、防衛関係費の増額をめざすとしています。

政治状況の変化で、改めて政治の暴走に反対し、憲法を守り・いかに取り組みの再強化を訴えています。

## ひと

### 茨木のり子⑤

茨木と「ぬまのばばさま」

青山 崇



茨木が庄内との関係を深めたのは、母・勝を通してでもある。

母の実家は、三川町東沼の大滝三郎右衛門家は元地主であった。地主というと大地主・本間家が焦点になるが、庄内は数十町の中小地主が多かった。そして地主と医者、老舗旅館、大商家などの資産家らが姻戚関係で結ばれ社会的関係を密にしていた。大滝家もそうであった。「ぬまのばばさま」と後に呼ばれるほど包容力と品格があった。

茨木は、「ぬまのばばさま」について「答」という詩を書いている。

ばばさま  
今までで  
ばばさまが一番幸せだったのは  
いつだった？  
(略)  
火鉢のまわりに子供たちを座らせて  
かきもちを焼いてやっ  
たとき  
(後略)。

家の中もこれに象徴されるようなものが、ばばさまたちに要求されたのである。  
「ぬま」は集落名。東沼のことである。

光代は大山の造り酒屋・大滝直之助家から嫁に来た。大滝家はまた江戸後期に国学の中心であり、さらに、華道、茶道を嗜み立派な茶室ももっていた。このような環境で素質を身に着け、嫁いでさらに磨かれたのである。写真にもよく表れている。

3男4女をもつけた。長男・良三は跡継ぎ、次男・光次は結核で自宅療養し37歳で死亡、3男・末子の七郎は大石田町豪商渡邊家に婿養子、長女・淑は酒田



## アベのマスク

先日、かかりつけの病院に行ったら、マスクを不織布の物に代えてくれと言う。これは彼の有名な？アベのマスクだぞ・と威張って見たものの、布製はダメだと言うので、車に戻って不織布のマスクに代えたんだが。

▲病院で使えない「こんな物を」トクトクとして全国に配ったアベ政権というものは、トンドモノ者集まりだったんだナと改めて思っていたら、先月28日の新聞報道で皆さんの眼にも。

▲山新には、会計検査院が調べた結果、アベノマスクなど8300万枚倉庫に115億円分、保管費6億円とある。一方同日の赤旗には、アベのマスク3割お蔵、平均単価143円で計算すると118億円に相当すると言っ

米問屋・荒木家、次女・繁は酒田平田・地主五十嵐家、3女・栄は鶴岡矢馳の地主・木村九平兵衛家というのである。4女・勝は愛知県西尾市医師の宮崎洪(ひろし)に、茨木の母である。



このように大滝家も庄内地主の姻戚関係をつくり、庄内の上層家を形成していたのである。

▲税金の無駄使いに厳しい会計検査院が、これにどんな話をしたのかは新聞に出ていないが、磯崎官房副長官は、「調達に問題があったとは考えていない」と記者会見で述べたと言う。誰への付度た？

▲この人、物が正しく見えない眼をしているんだろうか。3割も残っていると言えれば、調達に問題が無かったとはいえ、注文した数に間違いがあったんじゃないですか。余っているマスクの保管料が今まで6億円なんだとヨ。毎月7500万円もかかるんだぜ。

▲当時の首相がしたとは言え、今でも保管料が掛かる、こんな仕事に責任を取らせることは出来ないんですか会計検査院。こんなデータラメをした張本人を、当選させてほしくないんだがね。(石川)